

MACC^{マック}通信

Monozukuri Arakawa City Cluster

第25号

2013年6月28日発行

荒川区が進める『MACCプロジェクト』は、荒川区の特徴である多彩な産業集積を活かした、区内企業同士の顔の見えるネットワークの形成を推進することで、荒川区の産業振興(商品開発や販路拡大など)を図ろうとするものです。

「MACC通信」は、この『MACCプロジェクト』に関わるホットな情報をお届けしていきます。

今回は、「MACC会計セミナー」、「すがも四の市」、「㈱トネ製作所の補助金採択」、「人事院新任行政研修」、「新会員紹介」、「分科会活動状況」についてご報告します。

MACC会計セミナー(3回シリーズ)を開催しました

平成25年3月18日(月)、4月16日(火)、5月14日(火)の3回に分けて、産業経済部4階研修室において「MACC会計セミナー」が開催され、3ヵ月に渡る長期のセミナーにもかかわらず、MACC会員企業及び関係者20名を超える参加者が集まりました。講師は荒川区の高度特定分野登録専門家である“おくざわ会計事務所 所長 奥澤剛彦税理士”です。

このセミナーでは、参加企業の決算書を元に、決算書における見方のポイント等を講義していただきました。今までは「経営者の視点」で見ていた決算者を「融資をする金融機関からの視点で見た決算書」といった



奥澤剛彦税理士

違った観点から新たな発見を見出し、「自社の決算書の数字がわかるようになること」を意図して企画されました。これはまさしく「経営計画」作成の為の第1ステップに当たります。

参加企業からは、「自社の決算書の強みの発見につながり、過去の努力の積み重ねが実績に結実されたことを改めて確認できた。」「自社の弱みを発見できた。」と多様な意見が聞かれました。

特に自社の弱みを発見できた方に対し奥澤氏からは「まずは“気が付くこと”が始まりです。ここから「経営改善」が始まり3年後、5年後に振り返った時『あの時気が付いて本当に良かった!』と必ず思えるようになり



講義風景

ます。」とエールが贈られました。

また「通常5か年の経営計画作成支援をする時は、過去3期分の決算書の分析。

過去の分析を基に、同業他社の黒字企業の数字と比べた場合の自社の強みと弱みの発見。

実行可能な5か年の経営計画書の作成。

5か年の経営計画を月次計画まで落とし込み、毎月の月次決算と比較しながらのモニタリング。

つまり「己を知り、敵を知り、勝つための戦略を立てて 実行した結果を毎月フィードバックしていくという4つのステップを踏むこと。」と「経営計画作成」のポイントが示されました。

最終日の5月14日(火)の講義終了後に行われた“参加者との懇談”では、受講前と受講後の自分の中の気付きや変化、また、今後のセミナー開催についても、忌憚のない意見が交わされ、閉会しました。



最終日 懇談風景

グローバルビジネス研究会活動報告 「チャイナプラスワンとしてのタイ・ミャンマー」



4月24日(水)平成25年度「グローバルビジネス研究会」第1回定例会が産業経済部4階研修室において開催されました。今、製造拠点の中国集中におけるリスクヘッジとしてASEAN諸国への投資が注目されています。今回はその投資先として見たタイ・ミャンマーの魅力や問題点について、みずほ銀行 産業調査部 直投支援室 参事役 吉越廉朗氏にご講演いただきました。

吉野経営支援課長 冒頭4月より経営支援課に着任した、吉野経営支援課長から「私はJICA専門家としてタイの自治体間協力の支援をした関係で、同国進出日本企業の状況等について、また民主化がすすめられているミャンマーについても、今後、日本企業にとってビジネスチャンスになるという事で、様々なお話を聞くことができるのではないかと期待しています。」と挨拶をしました。

【吉越氏講演】

タイの投資環境と進出時の留意点

タイは95%が仏教徒であり、日本人にとっても非常に親しみやすい国の一つです。産業構成を見ても製造業が1/3を占め、“ものづくり”がタイにとってかせない産業の一つであり、日本はタイの最大の貿易相手国と言えます。そのタイ進出済日系製造業が今日の4,000社以上になった最大の要因は、BOI(タイ国投資委員会)の恩典制度の存在と言えるでしょう。タイでは現在製造業であれば、外資100%の会社設立可能ですが、BOIは更に恩典を付与することにより、他国を排してタイへの投資を呼び込もうという投資奨励制度で、約30年前から継続運営されているものです。主な恩典としては、

当初投資額を上限とした法人所得税の免除 機械設備に輸入税関免税 外資Majority(外国資本が50%以上の株式を所有)企業であっても土地所有を認める 外国人の就労許可条件緩和 輸出製品用原材料の輸入関税免除、などがあります。

具体的に工場を設立される場合には、まずは 工場用地を選定、BOIへ申請提出、BOIのヒアリングを受けた後、並行して会社を設立、という手順が一般的で、約6ヶ月の期間を要します。

ただ、残念ながら最近のタイの人手不足、人件費高騰により労働集約的製造業の進出に満腹感があるためか、BOIは、来年初めからこの恩典の対象業種を大幅に絞り込むことを発表しております。タイへの製造業進出を検討されておられる企業は、年内にBOI申請を提出されることをお勧めします。



吉越廉朗氏

ミャンマーの投資環境

ミャンマーは、最近の急激な民主化進展により、新たな投資国として注目されています。同国の魅力は、豊富な人口(6,200万人のうち労働人口は3,300万人)、豊富な天然資源、安価な労働力、超親日、が挙げられ、一方課題としては、電力不足などの脆弱なインフラ、米国経済制裁の影響、があります。現地には200社以上の縫製会社がありますが、一方で工業部品製造など高付加価値を生み出す工場設立はインフラ未整備を理由に「時期尚早」と言うの結論を出す日系企業が多いようです。

ただ今後、目白押しのインフラ整備事業、2015年に分譲開始予定のティラワー工業団地への日系企業進出等を見込み、会計・法律事務所、物流、建設業等の駐在員事務所、現地法人設立も増えており、進出企業数は80社を超えています。

現地法人の設立に際しては、昨年末に外国投資法が改正され、業種によっては 外資参入禁止、現地企業との合併のみ認められるもの、監督官庁の定めを遵守する必要があるもの、などの制限がある点留意が必要です。また、合併相手が米国経済制裁の一環であるSDNリスト(Specially Designated Nationals)に該当する場合は、日本からの送金ができないので注意が必要です。

現地駐在者によれば、「概ねミャンマーの生活に不自由はないものの、高度医療はタイかシンガポールに行って受けざるを得ない」とのことでした。

最後に吉越氏は、タイ、ミャンマーに加え、「ラオス」の魅力や課題等についても触れ、講演を締めくくりました。

MACCプロジェクト新会員紹介！！

このコーナーでは、新たにMACC会員となられた企業を紹介していきます。今後の展望やMACCプロジェクトに期待することなどをそれぞれ伺ってみました。

＋ 有限会社 サイバーホット ＋

(荒川区東尾久3-16-16-802 <http://www.cyber-hot.com/>)

- ・平成25年2月入会
- ・創業 平成15年
- ・資本金 300万円

有限会社 サイバーホットは、パソコンサポート、DVD・VIDEO-CD制作、ホームページ制作から管理運営まで、通販コンサルタント&サポート、デザイン



代表取締役社長
浦田 道貴 氏

ン広告制作、電子回路設計、基板設計、物性・成分分析代行等を行うIT関連の会社です。ホームページ作成からポスターのデザイン等、幅広い事業展開を行っています。

今後の展望は「今まで回りの中小企業の要望を聞いて出来ることは何でもやってきたが、今後も企業の要望に応えると同時に自社製品を開発し発展させたい。そのために今開発してる製品をものにして発展させたい。」

また、MACCプロジェクトには「異業種交流、知識、技術等のセミナーと支援を希望します。」と期待を寄せています。

＋ 有限会社 中央バフ製作所 ＋

(荒川区町屋1-28-14 <http://hw001.spaags.ne.jp/chuo/index.html>)

- ・平成25年2月入会
- ・創業 昭和30年
- ・資本金 300万円

有限会社 中央バフ製作所は、研磨用バフの製造一筋で58年の実績を誇ります。自由自在なバフの製作、都内唯一の研磨材含浸処理設備を完備し、研磨剤入り特殊バフの販売に自信を持っています。



代表取締役社長
倉澤 正行 氏

今後の展望は「中小企業の強みを活かした迅速且つ細かなサービスを打ち出すこと、もう一つは新製品の開発への取り組みを進めたい。新製品では、廃棄されていた布団カバーをリサイクルしたECOバフを開発した。最小の経費で最大の利益を出し、更なる経営発展を目指す。」

またMACCプロジェクトには「後継者の育成、海外進出のサポート、新事業立ち上げの指導・支援。そしてMACCの持つ情報収集力と第三者による企業分析で今後の経営には不可欠な支援サポートを」と期待を寄せています。

第8回すがもビジネスフェア「四の市」にMACC会員企業2社が出展

平成25年5月14日(火)巣鴨信用金庫 本店3階ホール(豊島区巣鴨2-10-2)において巣鴨信用金庫主催「第8回すがもビジネスフェア 四の市」が開催され、MACC会員企業2社が出展しました。当日は最高気温28度を越える“夏”を感じさせる暑さの中、たくさんの来場者で賑わいを見せました。

このイベントは、地域事業者の情報発信の場として活用することにより地域経済の活力を高めるとともに地域に新たな賑わいを創出することを目的としています。平成21年2月より年2回(春・秋)開催され、荒川区は第1回より継続して後援をし、今回で8回目を数えます。会場は”おばあんの原宿”として知られる、巣鴨地蔵通り商店街の入り口近くであり、初夏の暑い日ざしの中、とげぬき地蔵にお参り

に来たお年寄りで大変賑わいを見せていました。

出展企業は、食料品・日用雑貨・衣料品・化粧品と多種多様で、荒川区では第1回(平成21年2月)に(有)板垣製作所(代表取締役社長 板垣隆氏(当時))が出展しています。

今回、荒川区からはMACC会員企業として(株)テクノキャッチ(荒川区東尾久4-39-7 代表取締役 古内衣枝氏 <http://www.techno-catch.jp/>)と松田金型

工業(株)(荒川区西尾久5-19-1 代表取締役会長松田正雄氏 <http://www.matsuda-kanagata.co.jp/>)の2社が、会員外では尾久キャスト工業(有)(荒川区西尾久7-15-5)の計3社が出展しました。

(株)テクノキャッチは、「防災絆手帳」(MACC製品)、「携帯緊急便利袋」(MACC製品)、「ペットボトル 開けるくん」を、松田金型工業(株)からは「卓上かご(大・小2種類)」、「トゥインクリンク」(MACC製品)、「箸置き」のそれぞれ3種類を展示・販売しました。お客様の反応は?と伺うと、「防災絆手帳」と「箸置き」は比較的若い人に、「ペットボトルあけるくん」と「卓上かご」はお年寄りに関心が強かったとのことでした。

また、松田会長は「今回出展して、今までは物を作るだけの戦略であったが、実際に使う人の気持ちになって、物を作り・売る戦略に切り替える良いきっかけになったのではないかと思った。また来場

者の年齢層に合わせて販売商品を選ばなければならないと改めて思った。」と、この出展での感想をいただきました。

古内社長からは「今回の出展を決めたのは、信用金庫からの勧めもさることなが

ら、巣鴨信用金庫の経営姿勢によるところが大きいと思う。また巣鴨信用金庫・出展者・お客様の三者にとって共に良い結果を導き出したイベントになっていると思う」とコメントをいただきました。

最後におふたりに、本日の売り上げは?と尋ねると、「当初の予想通りですね」と、笑顔で語ってくれました。



(右)松田正雄会長
(左)古内衣枝社長

「円高・エネルギー制約対策のための先端設備等投資促進事業補助金」に(株)トネ製作所(MACC会員企業)が採択される。

平成24年度補正予算事業の「円高・エネルギー制約対策のための先端設備等投資促進事業補助金(補助対象事業A)」第1次早期公募にMACC会員企業の(株)トネ製作所(荒川区町屋8-13-6 代表取締役社長 利根通氏 <http://www.tone-ss.co.jp/>)が採択されました。



(株)トネ製作所
代表取締役社長 利根通氏

この補助金は円高・エネルギー等の先端生産設備等の導入を促進することを目的とし、大幅な資源生産性(1)の改善が見込まれる先端生産設備を導入する企業が対象(事業A)で、補助金額は対象経費の2分の1、上限120億となっています。第1次早期公募の採択結果は、中小企業の申請数50件(全件数84件)中、41件(全件数73件)が採択されました。

(株)トネ製作所が申請した案件は、ファイバーレーザー加工機の導入で補助金額7,500万円(対象経費の2分の1)。平成26年2月の稼働を目指します。

このレーザー加工機を導入することにより、真鍮・銅・CFRP(炭素繊維強化プラスチック)等の既存のCO₂レーザー加工機では出来なかったものが加工できるようになり、同業他社との差異性につながりま

す。また、世界最速のベンダー(金属の折り曲げ機)を同時に導入することで、トータルの生産性向上とコストやエネルギーの削減ができるという利点があります。そして購入経費が高額のため、この補助金があれば設備導入が大幅に遅れ、他社との競争力を高めることが困難となったであろうと利根社長は語ります。

最後に、今後同様の補助金の申請を考えている企業に向けてのアドバイスは?との問いに「まずは、何事にも好奇心を持って、あきらめない。補助金情報である中小企業庁等のメルマガやWebサイトに細かくチェックを入れ、自社に有益な情報は逃さない。申請書類作成時に無駄な時間をかけないために、申請に必要な情報(例えば月毎の電力使用量等)は逐一データ化しておく。導入設備の情報は常にアップデートしておく。」等の助言を頂きました。

1 資源生産性とは

「付加価値額(営業利益+人件費+減価償却費)÷
「エネルギー使用量(額)又は原材料使用額」

第2あすめし会活動報告 工場見学会・(有)中央パフ製作所

4月定例会(4月12日(金))は、会員企業の(有)中央パフ製作所(荒川区町屋1-28-14)への訪問でした。第2あすめし会では、会員相互の理解と信頼を深めるため、各会員の企業訪問を実施しています。

冒頭、倉澤正行社長による企業紹介に続いて、倉澤諒総務部長から業務の詳細をお話いただきました。

中央パフは、金属の研磨用の器具(パフ)を製造しており、研磨そのものを“業”とはしていません。材料は布やシートが多く、何枚も重ねて金属の芯に通し、さらに研磨剤の薬品の入った浴槽で含浸させた後、最後の仕上げ工程となります。

説明終了後の工場見学では、皆一様に、興味深々で、質問も多く予定時間を大幅に超えるほどでした。パフ製造は、珍しい業種ではありますが、多くの身近な分野で活用されていることもあり、数社からの具体的な提案もありました。やはり「百聞は一見にしかず」と言うように、参加者のパフに関する知識が急速に深まり、今後、企業間のアライアンスが一層推進することが期待されます。



工場見学を経て活発な質疑応答の後、

「おらが蕎麦(サンポップ町屋B1)」で行われた交流会では、企業経営の本音トークに花を咲かせ、有意義な時間を過ごした。

5月定例会(5月23日(木))は、「トミー経営塾(4)経営計画」と題して実施しました。今回からは会員ネットワーク推進メソッドとして、各人スピーチによる「メンバー近況報告」を導入したところ、好評を得たため、今後も継続的に行っていきたいと思えます。

続いてのグループワークでは「経営計画の必要性。経営計画書はどんな場面で役立ちますか？」をテーマに2グループに別れ、様々な検討がなされ、最後に各グループからの発表、豊泉シニアコーディネーターからの補足説明がありました。

現在、企業を取り巻く金融環境は、経営者自らが経営計画の作成を行い、内容の説明を行える事が必

須となっています。しかしながら、それが出来ている企業は荒川区でもそう多くありません。企業後継者は、早い時期にこの“スキル”を身に付けることが、火急の課題となっています。

経営計画書とは、従来は、役所や金融機関への提出資料のような予算計画型が多かったのですが、本来は企業経営の羅針盤となり得る“全員参加”の実践型でなければなりません。以下にそのポイントを示します。

必要利益から出発する。

経費を加えたものが売り上げ額。

予算ではなく計画(生きるための必達数字)

全社の必達目標

必達目標を達成する手段を明記。(戦略・戦術・顧客別・担当別)

計画(PPLAN)は、長期、中期、短期(単年度)、月次、分野別、得意先別、担当者別等を作成。前年比較、計画比較、実績比較を行う。

実施(DO) 実績と計画との差異分析(CHECK)月次検討会 差異の大きい項目を重点に原因の解明、改善方法の立案。

改善策の実施(ACTION) 月次検討会(対策評価CHECK) 対策修正 実施(DO)

経営理念は後追いで良い。

最初はマネ(真似)から導入。

社長の言うことを社員は素直に聞くか?

経営計画者は企業の羅針盤である。

5Sと経営計画書。

経営計画発表会を実施。

キーワード:「環境整備」「アナグマ社長」

「電信柱が...」「良い会社と悪い会社...」「経営計画書は会社の...」

第2あすめし会の会員はまだ、経営計画書を作成したことがない方が多かったが、「事前に『奥澤税理士による経営者の会計セミナー』を受講していたので、理解が深まった」という意見が多く出ました。



「第1あすめし会」平成24年度活動報告

平成24年度4月、自主運営の任意団体として新たなスタートを切った「第1あすめし会」の活動状況について報告します。

24年度前半は会員全員が一丸となって中小企業総合展に任意団体として初めて出展しました（前回報告）。24年度後半の活動は、「第1あすめし会」の企画運営による「オープンセミナー」を中心に報告をいたします。

オープンセミナー・定例会の記録

・24年11月オープンセミナー「経営者の生命保険の活用の仕方」講師塩谷貴志様（メリットアリコ）（参加者数24名）



・12月オープンセミナー「新・事業承継税制の活用」平仁様（税理士・「第1あすめし会」オプザーバー）（参加者数26名）



・25年1月「第1あすめし会」定例会「俺たちの所信表明」あすめし会メンバー（参加者数15名）

・2月オープンセミナー「企画書の1つの形態漫画」栗林康弘様（花嫁わた）・公所弘真様（漫画家）（参加者数25名）



・3月オープンセミナー「経営者に必要なインターネット市場を判断する基礎分析力」～googleアナリティクス活用講座～斉藤正洋様（斉藤広告企画室代表）（参加者数35名）

各回、多数の参加者を集め、自主運営「第1あすめし会」として活発な交流が行われました。

あすめし会メンバーは、『今年度も会員一同、力を合わせ実りある活動をめざしてがんばります！』と意気込みを語ってくれました。



平成25年度交流企画

（参加者数は外部参加者等を含む総数）

荒川区 ビジネスプランコンテスト 最優秀賞30万円

地域課題の解決につながるビジネスプランを募集します。受賞者には、賞金及び各種支援メニューを用意する予定です。公募開始は9月！意欲のある企業及び個人の応募をお待ちしております。

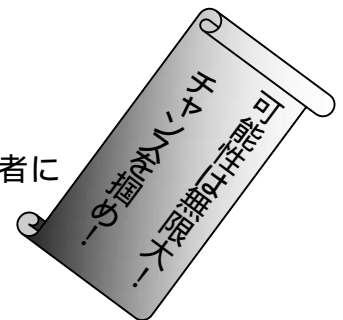
URL : <http://business-arakawa.jp/>

募集対象：荒川区で事業展開を予定されている方、区内事業者、荒川区の企業を1社以上含む企業グループのいずれかに該当する方

【お問合せ先】荒川区ビジネスプランコンテスト事務局

〒116-0002 荒川区荒川2-1-5 セントラル荒川ビル4階(山形大学工学部荒川サテライト内)

TEL:03-6806-7903 FAX:03-6806-7902 E-Mail:info@business-arakawa.jp



区内企業の現場で、国のキャリア公務員の新人研修 91人がMACC会員企業12社の工場見学 「現場を知る」行政研修を実施

国の施策の企画立案などに携わる“キャリア公務員”の新人研修である、人事院の「平成25年度初任行政研修」の一環として、対象者のうち91人が6月12日（水）に荒川区内の中小企業を訪れ、行政の役割や中小企業の実情を知る実地体験を行いました。当日は、全体集会の後、MACCの会員企業12社を6班に分かれて2社ずつ訪問し、それぞれの工場見学や経営者らとの意見交換が交わされました。荒川区内企業を訪問して、“キャリア公務員”の新人研修が行われるのは初めてで、“モノづくりのまち”を象徴する中小企業との異例の教育研修交流が話題を呼んでいます。

現場訪問で「国民的視点を養う」が目的

「初任行政研修」は、人事院公務員研修所が新規採用の国家公務員のうち、将来、府省で政策の企画立案等に従事することが予測される職員を対象に、「国民全体の奉仕者としての自覚や国民全体の視点から施策を行うための基礎的素養・見識を養う」ことを目的に実施しているものです。

今回は、今年4月1日に採用された国家公務員のうち、91人が参加し、区内の企業訪問研修が行われました。特に、企業の訪問は、「中小企業を訪問し、関係者との意見交換を通じて、政策立案を行う上で現場を知ることの重要性を学ぶ。また、行政が直面する諸課題について認識を深めるとともに、行政の役割・あり方について考える」狙いで、実施されました。



励ましのあいさつをする西川区長

当日は、午前中にサンパール荒川で全体会合が行われ、東京23区の特別区長会会長でもある西川太一郎区長があいさつし、「中小企業が集積する荒川区での行政研修を歓迎する。志を持って国家公務員になったのだから、この国を運営する気概をもって、先達に学びつつ自分流の対処術を確立することが大事。国民は国家を大切に思うと同時に、国民に対し

て優しいまなざしで見たいと願っている。大きく高い山を支えるには、幅の広い裾野が必要なように、国民が幸せに思う国づくりを進めるために、幅広い能力を養い、先頭に立つ人材になってほしい」と述べました。

続いて、区が中小企業振興施策の柱の1つとして推進している「MACCプロジェクト」について、豊泉シニアコーディネーターが取り組みの概要を説明した後、「会社紹介」として当日の訪問先企業の2社が講演しました。その中で、(株)日興工ボナイト製造所の遠藤智久代表取締役は「経営状況が苦しい時期もあったが、区が実施する「あらかわ経営塾」や「MACC」に参加することで、人脈や事業展開のヒントを得、新製品開発の発想も広がり、将来展望を開くことができた」と苦境を克服した経験談を披露。大東工業(株)の井上浩代表取締役は「当社は中小企業だが、他社にない技術を持ち、オリジナルブランド製品で独立独歩の経営を続けている。日本には下請けでなく、自社技術で自立している中小企業が少なくない。それはお客様を大事に思い、お客様のニーズに応えようとする国民性が背景にある。顧客主義の土壌を育てる施策を忘れないでほしい」と訴えました。

研修生から「中小企業が円滑に仕事できるように、認識を新たにしたい」との感想

午後は、91人が6班に分かれて、各2社ずつを訪れ、それぞれが熱心に工場見学をし、経営者や関係者との意見交換も熱気を帯びた雰囲気で行われました。

区内企業の現場訪問で、ものづくり企業を実地体



企業訪問（太陽興業株）
意見交換の様子

験した研修生からは、

- ・規模こそ中小企業だが、手掛けている仕事はそれぞれが生活や産業に関連し奥深く歴史を感じる。
- ・認識を新たにすることが多かった。
- ・これからさらに実態をしっかり把握し、中小企業の皆さんが円滑に仕事できることを念頭において、公務員としての資質を高めていきたい。

などの感想が寄せられました。



企業訪問（壮光舎印刷株）
（製本工程を）工場見学の様子

訪問先企業一覧

（ご協力ありがとうございました。）

（50音順）

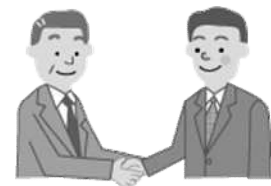
企業名	住所	企業名	住所
(株)荒川樹脂	荒川5-39-2 03-3892-5721	(有)中央パフ製作所	町屋1-28-14 03-3895-4762
(株)東風谷製作所	東尾久2-34-15 03-3893-4324	(株)東京ベル製作所	西尾久4-8-4 03-3893-5741
壮光舎印刷(株)	東日暮里6-20-9 03-3802-4545	(株)トネ製作所	町屋8-13-6 03-3895-7791
(株)総合プラスチック	東尾久5-34-3 03-3893-3824	(株)日興工ボナイト製造所	荒川1-38-6 03-3891-5258
太陽興業(株)	西日暮里6-63-4 03-3893-2741	松田金型工業(株)	西尾久5-19-1 03-3800-3531
大東工業(株)	西尾久7-52-1 03-3893-4551	(株)マツダ自転車工場	東尾久1-2-4 03-5692-6531

荒川区事業承継セミナー

“事例から見る新しい事業承継のかたち”

円滑に事業を承継することは、継続した事業の発展に欠かせません。しかし、様々な原因によって、円滑に進まないことがあります。そこで本セミナーでは、実際にあったいくつかの事例を中心に、課題やその解決のヒントをご紹介します。今お悩みの方、今後事業承継を考える方など、ご興味のある方はぜひご聴講ください。ご参加お待ちしております！

- 【開催日時】 平成25年7月25日（木） 18:00～20:00
 【会場】 荒川区産業経済部4階研修室A
 【講師】 みずほ銀行法人マーケティング部コンサルティングチーム次長 渡辺敬介氏
 【プログラム】 17:30～ 受付開始
 18:00～20:00 講演 「事例から見る新しい事業承継のかたち」
 【講演内容】 銀行がサポートした親族内承継、親族外承継の最新事例を紹介し、
 企業オーナーがいかにして課題に取り組んだかをわかりやすく解説します。
 [紹介事例] 納税猶予制度の活用 分散株式の集約と組織再編
 種類株式の活用 親族外承継 等
 【定員】 30人（申込み順。区内外を問いません）
 【締切】 平成25年7月23日（火）
 【費用】 無料
 【お問合せ】 申込み・お問合せは、荒川区産業経済部経営支援課産業活性化係
 ☎ (3803)2311 FAX (3803)2333
 E-Mail:macc@city.arakawa.tokyo.jp



連載～その7～

牛山博文の 毛～ひと工夫!



MACCコーディネーター 牛山博文

MACCプロジェクトでは4名のコーディネーターによる、きめ細かい企業支援を行っています。

このコーナーでは、牛山コーディネーターによる生産管理の事例やMACCコーディネーターとしての活動報告等を、わかりやすく連載で皆様にお伝えしていきます。

「会社や団体組織のなかで 新しいモノや仕組みを作る方法！最終章」

今回は前号からの続きで、特定の組織において新しいモノや仕組み（システム）を作る3つの手法のうちの最後。「モノや仕組みを新規に自分で作り上げる（創造）」を取り上げます。

「創造」とは今までにないモノや仕組みを作り上げることなので、他社の動向や過去の事例からでは簡単に導くことができません。しかし創造性が高いということは価値が高いということですから、うまく「創造」できれば非常に効果が上がります。

「まね」や「改善」は現状分析が重要ですが、何が問題なのかは既に与えられたところから出発するワケで、分析対象も何を分析すればいいか比較的わかりやすいものです。しかしながら「世の中にない新しいモノや仕組み」をどのように創造していくのかということは、いままでアイデア発想法や創造思考など色々な方法が提唱されてきました。「まね」

や「改善」とは根本的に違った視点が必要で、いまだ確立されてないのが現状です。

世の中の創造事例を考えてみると、例えばトヨタの「ジャストインタイム」やアップル社の「iPod、iPhone、」ソニーの「ウォークマン」、など開発者の「ひらめき・直観・思いつき」などがこれらの「創造」に關与していることが伺われます。

それでは、ひらめきや直観力を養う、あるいはひらめきや直観をうまく誘導するにはどうすれば良いかという問題に行き着くのですが、「直観」を磨くための研究や、そもそも「直観やひらめき」に頼らない科学的な方法がないのだろうか、など色々な研究が現在進行形で行われているのです。

「創造」については、我々コーディネーターの新商品・新技術開発支援の大きなテーマでもあり、今後改めてお話ししたいと考えています。



MACCコーディネーター TOMMYの部屋 VOL.23

☺ 「荒川コツコツ物語（1）」 ☺

MACCシニアコーディネーター 豊泉光男

平成25年6月、今年も入梅の知らせを聞いて、もう半年が過ぎようとしている。今年は新政権に代わり、株価の上昇も伴い、景気回復への期待がMACC会員企業にも多く聞こえるようになった。失われた20年、リーマンショックと長い景気の減速が続いていたが、トミーの元にもここ数か月で、今までなかっ

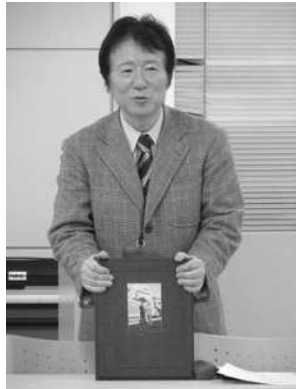
た明るいニュースが飛び込んでくるようになった。

1件目は、3月になって、久しぶりに荒川区のロータリークラブで、MACCのお話をする機会を得た。「皆さん、お久しぶりです。お元気ですか？確か6年ぶりですね。今日は最近のMACCに



荒川ロータリークラブで講演をするトミー

つきまして...」こちらの卓話（ロータリーではその様に言うらしい。）も終わって、会場からエレベーターに向かって歩いていると後ろからどこか聞き覚えのある声が聞こえる。「豊泉さん、一寸話があるんだけど。」野太い声の持ち主は、A社長である。エレベーター前で二人は突然話し始めた。中小企業のオーナー社長は忙しく、その場で決断していかなくては時間がない。「豊泉さん、うちの息子。今度あすめし会に入れてくれないかね？」A社長は率直に話をする。「解りました。ところでこの話、何年振りですかね？そう6年ぶりですね。はは...。」二人とも、もう6年前のあの瞬間にすっかり戻って、その続きを何の違和感もなく談笑している。「A社長！では、御社にお邪魔して、後継者の息子さんにご説明に行きましょう。日程は、メールでご連絡いたします。社長のアドレスは？」時間をおいて、A社長は何やらポケットから取り出した。「ここに書いてあるメールアドレスに連絡ください。」渡されたメルアドはトミーも眼鏡をかけないと確認できない程小さな文字だった。平成19年MACCコーディネータに就任して、まもなく新商品開発勉強会でA社長と出会い、その後、後継者をあすめし会にお誘いしたが、ご縁がなかった。でも、その6年前のお誘いの返事が今日届いたのかもしれない。お蔭で昨年5名でスタートした第2あすめし会（ニアス）もいよいよ会員数10名になりそうだ。元気になる話だった。



2件目は、Facebookを始めて、3年目に入った5月、MACC会員からFB上でビッグニュースが入っていた。

B社長から「ただいまドイツの展示会に出展しています。よろしくー！」とのメッセージ。トミーは大喜びである。2年前から、荒川区のモノづくり企業の海外事業の成功を夢見て、「失敗しない海外事業！」を合言葉に「グローバルビジネス研究会(以下グロ研と言う)」の定例会を発足した。お手本は、大田区、川崎市、TAMAに学んだが荒川区ではまだ、成功事例や参加者、推進者も少なかった。若い世代にもPRをして、徐々に关心や実践する企業も現れてきたが、まだまだ数は少ない。荒川区のモノづくり企業も「グロ研」を活用して、海外市場を自社の成長に取り込んで欲しいと願っている。そんな中、今ま

では、あまり海外事業に関心を示さなかったB社長から突然にドイツの展示会参加のニュース、まさに“青天の霹靂”である。「B社長、帰国したら、お土産はいらないけど。ぜひ、土産話を聞かせてください。」と書き込みをした。

帰国後、珍しくB社長が訪問して来た。「しばらくですね。別の用事が終わったら、少し話を聞かせてください。」と挨拶をした。B社長は他部門に書類の提出を済ませ、近くの空いているテーブルでトミーと話を始めた。「豊泉さん、世界は広いですね。今回のヨーロッパの展示会に出展して、驚くことばかりでした。やっぱり、英語を勉強しないとだめですね。僕もやりますよ。遅まきながら！それと今回は我が社の本業の金属加工の紹介がメインでしたが、意外に最近開発したBtoC福祉用品（MACC製品）が凄い反応でした。その場で大口契約があって、もーびっくりでした。とにかく、我が社として、ヨーロッパや海外の展示会など初めてですから、右も左も解らない。しかも、通訳はいるものの私一人での参加なので、何を準備したら良いか解らずに参加しました。お蔭で、海外の展示会では、その場で大口の契約の準備をすることを学びました。」と初めての海外展示会参加の報告をグロ研主催者のトミーに興奮冷めやらず熱っぽく語ってくれた。思えば2012年4月グロ研は、荒川区の企業が海外の成長を様々な方法で自社の新事業ビジネスとして取り込むための勉強会として発足した。ただし、発足準備には約2年がかかった。発足して1年、企画から今日まで3年たって、漸くMACC会員企業に活用されるようになった。何事もあきらめずに石の上にも3年、『守破離』でもう3年と6年間コツコツ活動の大切さが身に染みる。MACCシニアコーディネーター・トミーのつぶやきでした。

< 発行 >

荒川区産業経済部経営支援課産業活性化係
MACCプロジェクト事務局

〒116-0002 東京都荒川区荒川2-1-5

セントラル荒川ビル3階

TEL:03-3802-4683 FAX:03-3803-2333

E-mail:macc@city.arakawa.tokyo.jp

URL:http://

sangyo.city.arakawa.tokyo.jp/macc/